

共生

奈良県生協連

2003年1月

NO.47

万葉のいぶきを求めて— (12)



朱雀大路の柳

春の日に 張れる柳を 取りもちて 見れば都の^{おほし}大路思ほゆ

^{おお} ^{とも}の ^{やか} ^{もち}
大 伴 家 持

万葉の歌人・大伴家持が越中の国守として赴任していた時に、都を偲んで詠んだ歌である。「越中の国にも春が来たんだなあ。この柳の枝を見ていると、都の大路を思い出すよ」

平城京の街路は今日の街路とは全く様相の違ったものでした。今日では街路に面して建物は入口や門を開いています。しかし平城京の大路ではその両側に4～5間の高さの築地塀が延々と続いていました。大路には街路樹として柳や橘・エンジュなどが植えられていたようです。しかしその街路の側溝はゴミ捨て場であり、また排泄物などの流れる下水道でもあったのです。都に一步足を踏み入ると大路の華やかさと同時に鼻をつく都特有の異臭に悩まされたようです。この平城京も784年長岡遷都をもって幕を閉じ、その50年後には水田の下に姿を消す。

年頭のごあいさつ



奈良県生活協同組合連合会

会 長 繁 田 實 造



アメリカではITバブルがはじけて以来、経済の見通しが悪化しています。また同時多発テロをきっかけにしてアフガンで勃発した戦争が、イラクにおいても発生するのではないかとの不安を日々増大させつつあります。

小泉内閣は「構造改革なくして……なし」と声高に絶叫はするのですが、未だにその成果が目に見えてこないのが現状だといえます。金融不安、国内製造業の不振と海外流出、失業者の増加、国家財政・地方財政の破綻不安、年金財政の危機的状況、医療費の受益者負担増など、どの一つをとってみても先行き不安なことばかりといえます。

このような国民生活に対する不安を反映して、奈良県でも流通再編が始まっています。すなわち、大型ショッピングセンターが県下の各地で開設され、県下各地の既存店においても新店、店舗拡張、居ぬき出店、営業時間延長などの積極的な動きが出ております。ならコープをはじめとして県連に結集する各生協はこのような動きに遅れをとることなく、組合員の利益のために対応していかなければならないと思えます。

ところで、奈良県生協連は、昨年いろいろなことをしてきました。なかでも第13回奈良県生協大会において「食品の安全に向けて」のテーマで、日和佐信子氏の基調講演、それぞれの本音の披瀝もあり、大変盛り上がりました。また、組織面でも奈良女子大生協が校地を異にす

る附属中・高にまで活動分野を広げて頑張ったことは特筆すべきことであったと高く評価しています。

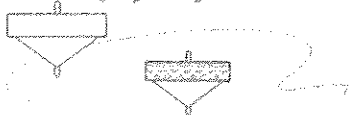
県下約27万世帯を擁し、「自立した市民の協同の力で人間らしいくらしの創造と持続可能な社会の実現」をめざして活動している奈良県生協連としては、今年の活動課題として、県にたいした以下のような要望書を提出しました。

- ① B S E 発生以後、一連の食品表示偽装、無認可添加物や無登録農薬の使用、中国産農産物の残留農薬など、食を通じた国民の健康不安に対して、ともに対処しましょう。
- ② ヨハネスブルクの環境・開発サミットで、日本は京都議定書の議長国として批准国となりましたが、積極的に環境問題に、ともに関わっていきましょう。
- ③ 昨年スタートした介護保険制度が、障害者福祉や児童福祉の面でも利用契約制へと移行されるので、地域における福祉サービスの充実のために、ともに力を発揮しましょう。
- ④ 規制緩和の下で、消費者被害が増大していますので、消費者が被害にあわないためにも、ねばり強く消費者の啓発に、ともに取り組みしましょう。
- ⑤ 東南海・南海地震発生が近いといわれています。災害時における県民生活の安定のために、ともに防災対策の充実に努めましょう。これらの要望書の実現のために、力を合わせて頑張りますのでよろしくお願いします。

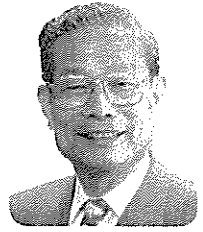
も く じ

会長あいさつ……………②	福祉……………⑨	広がる協同・くらしの輪……………⑫
知事あいさつ……………③	平和……………⑩	つながる連帯・友好の輪……………⑭
生協大会……………④	環境……………⑪	県連日誌……………⑯

新年のごあいさつ



奈良県知事
柿本 善也



奈良県の消費生活協同組合員、並びに、関係者の皆様、明けましておめでとうございます。

平成15年の年頭に当たり、まず、私たちの奈良県の更なる繁栄と皆様のご健勝・ご多幸を、心からお祈り申し上げます。

さて、昨年は、前年に引き続き世界各地で平和を脅かす事件が続発したほか、国内では食品の虚偽表示など国民の信頼を揺るがす事態が相次ぎました。失業率は依然高い水準にあり、厳しい経済・雇用環境が続いています。

このような状況を踏まえ、県といたしましては、県民の安全・安心の確保、経済・雇用対策など、総合的な諸施策を更に積極的に進めてまいります。

また、世界に誇る本県の豊富な歴史文化資源の特性を十分に発揮する施策を積極的に進めるほか、科学技術振興、産研学連携による新規事業の創出を目指すなど、時代の課題に鋭意取り組むとともに、教育改革、構造改革特区、県民参加等の地方分権時代にふさわしい開かれた行政「経営」を推進し、奈良県新総合計画後期実施計画の着実な実現に最大限の努力を傾けてまいりたいと、決意を新たにしています。

まず、本県の最重要課題として取り組んでいます道路整備では、国道169号伯母谷道路が完成するのをはじめ、奥宇陀広域農道等も全線開通する予定です。京奈和自動車道や完成間近の南阪奈道路等の整備も着実に進捗しています。

また、大滝ダムがいよいよ完成することとなりました。吉野川流域の安全確保とともに、県営水道の水がめとして水資源の安定的確保に大きく寄与することになります。

明るく安心して暮らせる社会を実現するため、老人保健福祉計画及び介護保険事業支援計画の改訂や地域福祉支援計画の策定により、総合的な地域福祉を推進するとともに、「支援費制度」に移行する障害者福祉サービスの円滑な運用を支援してまいります。

県立医大附属病院第二本館の新病棟が秋には竣工の予定です。

農産物の安全性の確保とともに、食品検査や食品表示の監視と指導を徹底し、食の安全・安心の確保に努めてまいります。

経済・雇用対策を含めた産業振興策としては、「けいはんな学研都市知的特区」の実現を目指すほか、「やまと創業インキュベータ」整備事業を実施するなど、幅広い対策を進めます。

本県の特性を生かす重点施策としては、7年後に迎える平城遷都1300年を節目として“新しい奈良県”を世界に発信していくため、「記念事業」の開催について具体像を示す事業計画を策定してまいります。

また、2010年までの間において、古代首都交遷の歴史・文化を中核とした情報発信や交流拡大を図ることとし、今秋は「飛鳥京ルネッサンス」イベントを開催する予定です。

県立万葉文化館の「万葉日本画」巡回展を全国六都市で開催するほか、「宇陀魅惑体験フェスティバル」を、9月から11月にかけて開催します。

このほか、小中一貫教育の導入、各種教育課程のカリキュラムの弾力化、各県立高校の特徴を明確化した再編計画づくり等の諸改革に取り組みます。また、総合情報センターとなる新県立図書館は、平成17年度の開館に向けて間もなく施設の建築工事に着手します。

いよいよ地域主導が具体化する時代へと動いています。私は、知事就任以来、「遊のある奈良県づくり」を提唱し、県民と力を合わせて、奈良県の持つ特性を最大限に発現する「世界に光る奈良県づくり」に邁進してきました。今後も、「県民の信頼とふれあい」を最優先にして、開かれた、分かりやすい県民参加型の県政を進めてまいり所存でありますので、一層のご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、奈良県生活協同組合連合会、並びに、各生活協同組合のますますの発展と、皆様方のご健勝・ご活躍を祈念申し上げて、新年のごあいさつといたします。

第13回奈良県生協大会

みんなで考えよう 食品の安全強化に向けて

2002年10月26日猿沢荘において「みんなで考えよう 食品の安全強化にむけて」をテーマに第13回奈良県生協大会を開催しました。県及び各種友誼団体、会員生協組合員・理事・役職員、食品の安全確保について一緒に考えたいという県民の方々など160名の参加があり、みんなで学び、考え、交流を広げました。

I部では全国消費者団体連絡会前事務局長 日和佐信子氏による「食の安全を確保するためにー農場から食卓までー」の基調講演のあと、日和佐氏をコメンテーターとして「今後の食品の安全強化に向けた施策について」をテーマにリレートークが行われました。パネリストとして農林水産省近畿農政局企画調整部長 永江啓一氏、奈良県福祉部健康局生活衛生課長 中岡富美一氏、奈良県農業協同組合常務理事 米沢英彦氏、市民生活協同組合ならコープ常任理事 辻由子氏、国・県・生産者団体・消費者団体それぞれから提案いただきました。またII部では奈良県生協連会長賞表彰式が行われ、福祉・文化活動推進賞を3団体、特別賞を2団体が受賞しました。



繁田会長のあいさつ

これまで生協は食品の安全を求めて、組合員による商品づくりや法改正をふくめた社会的なしくみをどうしていくか、国や県に対してはたらきかけてきた。特に今年はBSE問題をはじめ一連の表示偽装問題が明らかになり、今後の食品の安全確保や表示のあり方を根本的に見直さねばならないという問題に直面した。この状況下において、今後の食品の安全確保に向けて、我々はどうのように考えていかねば

ならないのか。今日の大会は、基調講演として日和佐氏の「食の安全を確保するためにー農場から食卓までー」、その後4名のパネリストによるリレートークが予定されているが、これだけのメンバーにお集まり頂けたのは、日頃の活動の成果だと思う。より一層充実した今年の活動のよりどころとして、多くの事がこの大会で得られ、それを直ちに実践に移せるような実りのある大会にしたい。

ご出席いただいた来賓の皆様 (順不同)

奈良県生活環境部 藤本凱広次長 県民生活課 大前利隆係長 同 山口政胤主査
奈良県農業協同組合中央会 森本成俊総括部部长
奈良YMCA 藤井辰男所長
奈良県原爆被害者の会 市原大資会長
日本生活協同組合連合会関西地連 西島秀向様
京都府生活協同組合連合会 坂本 茂事務局次長

全国から祝電・メッセージをいただきました (順不同)

祝電

- ・衆議院議員 森岡正宏様
- ・県議会厚生委員会 委員長 中村 昭様
- ・奈良県森林組合連合会 会長 北村又左衛門様
- ・日本生活協同組合連合会関西地連 事務局長 川村恵彦様
- ・和歌山県生活協同組合連合会 会長理事 尾添 仁様
- ・岡山県生活協同組合連合会 会長理事 吉永紀明様

メッセージ

- ・大阪府生活協同組合連合会
- ・静岡県生活協同組合連合会
- ・広島県生活協同組合連合会
- ・新潟県生活協同組合連合会
- ・富山県生活協同組合連合会
- ・滋賀県生活協同組合連合会
- ・山口県生活協同組合連合会
- ・香川県生活協同組合連合会
- ・全岐阜県生活協同組合連合会

基調講演

「食品の安全を確保するために — 農場から食卓まで —」

全国消費者団体連絡会前事務局長 雪印乳業株式会社社外取締役
BSE問題に関する調査検討委員会委員 日和佐信子氏

今ほど食の安全に関する信頼が揺らいでいる時はない。どうすれば食の安全が確保できるのか。農場から食卓までの過程、生産・加工・流通のすべてにおいて、その食品に関わっている人や組織や企業のすべてが安全に関しての責任をきちんと果たさなければ、安全な食品は私たちの手元には届かない。行政には、各過程においてルールを作りそのルールがきちんと守られているかをチェックする責任がある。この2つが守られてはじめて安全な食品が消費者に届けられる。今後の新しい食品安全行政のあり方は消費者の健康保護を最優先と位置づけること。



リレートーク

4名のパネリストから今後の食品の安全強化に向けて提案いただきました



◇ 農林水産省近畿農政局企画調整部長

永江啓一氏

農政局の仕事内容等の紹介のあと、消費者に軸足を移した農林水産行政、農林水産省が取り組んでいる施策の方向性、これからの行政施策の設計図でもある「食」と「農」の再生プランの3本の柱と、さらに具体化に向けての説明。また、食の安全と安心のための法改正、予算要求、食農教育、国際的なWTO問題について。

◇ 奈良県福祉部健康局生活衛生課課長 中岡富美一氏

食品保健行政の概要、食品衛生法における国及び県の施策概要、県の食品保健行政組織概要、食の安全に関する庁内関係各課の具体的施策についての説明。食品の安全を確保することは県政の重要な施策と位置付け、奈良県における食品の安全対策のための基本方針の原案を本年度中に作成し、パブリックコメント等で県民のみなさんからの意見を聞きながら来年度早々にも策定しようとして準備をしていること。

◇ 奈良県農業協同組合常務理事 米沢英彦氏

無登録農薬の問題について、安全使用の徹底、失効農薬の情報の提供など農協の取組みの報告と問題点について。日本農業が国民・消費者の支持を得て生き残っていくための条件であり、日本農業の質を高めていく運動であるJA生産工程管理・記帳運動について概要の説明。また、奈良県は全国一農薬使用の少ない県であり、地産・地消運動を自信を持って展開していきたい。消費者の皆さんには、同じ環境、風土の中で育った安全、安心、健康的な国産農産物への応援団になってほしい。

◇ 市民生活協同組合ならコープ常任理事 辻 由子氏

この一年間の出来事、あふれる情報と情報疎外の中での消費者としての感想。「わたしたちの食を守るために」消費者は、その消費者を構成する生活協同組合は何をしなければならないかを見つけ、考え、学び、広げていく活動。そういった活動が消費者主体の市場形成、安心と信頼社会の構築へとつながっていくのではないかと。

◇ コメンテーター 日和佐信子氏

中味の濃い議論がなされ、食の安心と安全の確保に向けて各々が前向きに取り組んでいる情報が提供されて非常によかった。今後、政策をつくったりいろいろする場面にもう少し消費者の参加を意識的に計って欲しい。そしてそれを政策にどう生かしていくかということと、消費者への情報提供の仕方が今後の課題である。



・上段：会長賞表彰 ・下二段：会員生協紹介

高専料理研究会より参加者にクッキーのお土産

奈良県生協連会長賞

福祉・文化活動推進賞

ディアーズコープいこま かしの木文庫

平井 麗久子

1978年、旧いこま店の集会室で開設した文庫は、1995年4月、現在の店舗でリニューアルオープンし、通算24年が過ぎた。開設から10年位まで、毎週1回2時間の貸出日は、あふれるばかりの子どもたちの熱気でむんむんしていた。その後、市立図書館の新設、少子化、子どもたちの本離れ等、社会的な状況の変化によって、文庫に足を運ぶ子どもは減少していった。現在の地に移ってから、「おはなし会」の定例化や親子で参加のクリスマス会などを開くうち、認知度も高まり、かつてのにぎわいはないものの、楽しみにやってくる常連の子どもが増えているが、その中心は幼児である。もっと小さな時から絵本の楽しさを知ってほしいと願って、本年5月より、0歳から3歳までの子どもとお母さんを対象にした「たんぼっぼクラブ」を始めた。会員制で現在15組の母子が、月1回文庫に集まる。毎月テーマをきめて、絵本を読んだり紹介したりしているが、幼児はもちろんのこと、赤ちゃんも興味をもって見てくれる。このところ提唱されているブックスタートの意義は大きいと思う。メニューの中のわらべ歌遊びもみんな大好きだ。こうして、絵本やわらべ歌を楽しみながら、子どもや親たちも親しくなり、会を重ねる毎に良い雰囲気になってきて、三人の世話係もわくわくしながら一緒に楽しんでいる。この会のために良質のおもちゃを揃えたり、赤ちゃん絵本の増冊など、文庫の資金を大幅に使ったが、この会の影響だろうか、普段の文庫の日にも新しい子どもがやって来るようになってきた。また、絵本に恵まれていないスリランカの子どもたちに、絵本を送る活動を続けている。9月中頃に先方の女性が来日するので、スリランカカレーと一緒に作って、カレーパーティーを開き、文庫のメンバー10人と親交を深める予定だ。

紙ふうせん

村井 利子

「紙ふうせん」は、平成11年コープたかだの開店と同時に開始しました。「年をとっても障がいがあっても、地域の中でより健やかに過ごすために」を合言葉に、高齢者や障がいのある人たちとの交流を行いながら親睦を深めています。現在メンバーは17名。自身が高齢者であったり病を抱えていたり、家族に障がい者のいる人やヘルパー等の資格を持つ人と、多彩でいつも明るく笑いが絶えません。皆「何かをやりたい」という気持ちで集まったのですが、当初は何から始めればよいか決まらず、コープの求める「福祉」とは何なのか、私たちにできる「福祉」とは何なのか、話し合いを重ね、手さぐりの状態で活動を始めました。福祉サークルとしては多分に型破りの形となった月一回の定例会は、まず自分たちの学習のために施設見学や健康管理・救命救急の講習会から始まり、皆でアイデアを出し合って、手芸、調理実習、時には遠出して、ぶどう狩りや昼食会、葛城山頂で宿泊その他の交流を行っています。コープの行事にも積極的に参加し、焼きそばやたこ焼きの模擬店を出店しました。また、一般の人を対象に外部から講師を招いての学習会や、他の障がい者のサークルや団体にボランティア派遣などもできるようになりました。そして今頑張っているのが、メンバーの一人が講師になって行う「足操術（足裏健康体操）」です。これは足をもむことで全身をリラックスさせ、自然治癒力を高めるものですが、コープの行事などでの「体験コーナー」は大好評。今や「紙ふうせん」は「足をもんでくれるサークル」として知られるようになりました。月一回のデイケア施設訪問では、お年寄りの足をもませていただいて、大変よろこばれています。今後もいろいろな企画で私たち独自の「福祉」を追及し続けたいと思います。

配食サービス「いちょうの会」

川北 宏美

私達「いちょうの会」は、ならコープ真美ヶ丘店で活動中のグループです。平成10年4月より利用者4名、ボランティア16名で開始していきました。毎月第2金曜日4時ごろに夕食用として、一食500円で、地域の独居または夫婦の高齢者宅（65才以上）などに手づくりのお弁当を配達しております。組合員以外の方もご利用できます。「いちょうの会」の命名は高齢者の胃腸をいたわり、銀杏葉のように永く健康であることを祈って名づけました。調理担当・配達担当・両方に分かれ、レシピは6人によるプロジェクトチームで3ヶ月分を決めています。基本的には御飯・おかず4品・果物・お菓子・漬け物をお弁当箱に詰め、おしながき

と、お誕生日には手作りの品物をプレゼント、12月第4週目にはクリスマスミニケーキを添えています。ボランティア一人一人が、地域の人々のお役に立ちたいという信念から、毎回熱心に参加し、まごころこめてお弁当を作り、元気に配達に出かけてくれ、笑顔が絶えない皆の姿に、日々感謝の心でいっぱいです。利用者の方々もとても喜んで戴き、お友達や近所の方を紹介して下さり、だんだん増えていき、現在 ボランティア27名・利用者50名です。出会いをたいせつに…

メおしながき例／今年の梅雨は雨が少なく節水制限が出るほどです。恵みの雨を少しだけでもたらししてくれた台風も過ぎ去り、また暑い日が続きます。お身体気を付けてくださいませ。本日の献立でございます
*海老ポテトコロケ*五目煮野菜のカレー炒め*若布と胡瓜の酢の物 本日中にお召し上がりくださいメ

特別賞

奈良工業高等専門学校 料理研究会

奈良女子大学新聞 はいんず

奈良県生協大会アピール

国内でのBSE発生以降、一連の食品表示の偽装、残留農薬、無認可添加物や無登録農薬の使用等々、消費者の食品の安全への不安と不信が頂点に達しています。今、なによりも食品に対する安心と安全の早急な回復が求められています。

私たちは、3年前、全国の生協と連携しながら、「食品衛生法の抜本的改正と運用の充実強化」を求める署名運動に取り組み、1300万筆を超える署名を政府に提出しました。その運動は今、「食品安全委員会」の設置と、「食品安全基本法」の制定に関する法案が、次の通常国会に提出されるという結果に結びつきました。また、「奈良県の食品安全行政の充実強化」を求める署名にも同時に取組み、26万筆を超える署名を全会派からの紹介議員を得て県議会に提出し、請願が趣旨採択されました。現在、県では庁内連絡会の設置へと動き出したところです。これら、食品の安全の社会システム構築に向けて、私たちは、今後の食品安全行政のあり方について、政府に対し、次のことを要請しています。

- 1) 食品安全委員会の機能として、関係閣僚会議の方針にある、リスク管理機関への「勧告」の権限や、リスク分析に関する「基本的な指針」の策定等を法に明記すること。
- 2) 食品安全委員会の人選や事務局構成について、リスク管理機関からの独立性を確保できる仕組みにすること。
- 3) 食品安全委員会の運営に消費者の意見を反映する仕組みを明確に定め、運用すること。
- 4) リスク評価やリスク管理の実施において、公聴会開催等を制度化するとともに、消費者等からの公聴会請求や意見提出を制度化すること。
- 5) 食品表示制度の一本化も含めた抜本見直しを早急に行うこと。
- 6) 食品安全委員会設置・食品安全基本法制定・食品衛生法等食品関連法改正の検討の過程において、消費者等から意見を聞く場を設けること。

また、奈良県に対しても、食品安全行政が拡充され、私たちのくらしの安心と安全が確保されるよう次のことを要請しています。

- 1) 食品衛生法をはじめ食品安全関連法制度に基づく、検査・監視業務を強化すること。そのための食品衛生監視員・と畜検査員・食鳥検査員の専任及び兼任者（主業務としての従事者）を増やすこと。また、BSEの早期原因究明を国に要望いただくとともに、廃用牛や死亡牛のBSE検査の受け入れ体制を準備すること。
- 2) 食品の安全を確保するための県の基本方針を早期に策定すること。そのためには、専任の担当者を配置すること。また、消費者の声を反映するための懇話会を設置すること。

私たち奈良県の生協は、くらしをとりまく不安に対して、「安心・安全」なくらしの創造をめざし、組合員それぞれが出来る方法で、全国の生協と連帯しながら、また、多くの国民・県民のみなさんの理解を得ながら、活動に取り組んでまいりました。

今こそ、生協の21世紀理念で掲げた「自立した市民の協同の力で 人間らしいくらしの創造と持続可能な社会の実現」をめざして、この奈良の地で協同組合の理念を広げ、地道な活動をひとつひとつ積み重ねて行こうではありませんか。

福祉

第14回ひまわり号は太秦映画村へ

2002. 11. 3

「ひまわり号」を走らせる奈良実行委員会主催

今年の行き先は10年以上も前に第2回のひまわり号で行った京都・太秦映画村。大オープンセットで繰り広げられる劇場映画やテレビの人気番組の撮影風景、映画文化館、ロケーションスタジオ、明治通り、旅籠筋、模擬撮影や大道芸など生きた撮影所の魅力を味わうことができ、第2回のころにはなかったアトラクションも増えて、以前に行かれた方も十分に楽しむことができました。

14回目を迎えたひまわり号ですが、スローガンは1回目から変わらず「ひまわり号」を走らせなくてもよい社会を目指そう！です。近年は法の制定を始め、バリアフリーは徐々に整備されつつありますが、障害をもつ人だけでなくみんなが安心して旅行できる社会を目指していきましょう。

ひまわり号夕刊より

- ひまわり号ははじめての参加。外へ出ることはほとんどないので、車椅子で出かけることに自信をつけたいと思って楽しみで参加している。一人だと出かけるにいけない仲間がたくさんで、出かけやすい。
- ひまわり号には毎年参加している。水戸黄門と銭形平次が好きで、今日は楽しみに参加した。
- 畳の上で死んでいる人がいて、その死んでいるはずの人が起き上がって追っかけて来たのがすご〜く恐かった。（最恐のお化け屋敷の前で取材）
- 参加の楽しみのひとつに、自分で焼いているパンの販売があります。本日持参分はあと一包みで完売です。映画村では奉行所のある「遠山の金さん」の舞台が楽しみです。ずっと参加していると、いつも顔をあわせる方とは顔見知りになります。
- たくさんのボランティアの方々が関わってくださり、とてもありがたい。今日は来てよかった。普段は電車に乗るのなかなか。移動にはほとんど車を使っている。外出するといつも肩身の狭い思いをしているが、今日は娘達が主人公。いつもこんな楽しいお出かけなら良いのだが。



出発のセレモニー



列車の中で突然、白ぬりの
広澤一座が登場！



映画村に到着



♪さては南京玉すだれ♪

平和

ノーモア・ウォーのつどい

— 異文化理解から多文化共生へ —

12月8日ノーモア・ウォーのつどいがディアーズコープいこまにおいて開催され、親子で85名の参加がありました。

アジア・太平洋戦争がはじまった12月8日にちなみ、悲惨な戦争を風化させず、平和の大切さを確かめる機会として毎年取組んで12回目となります。今年は、イラクでの戦争勃発の危険性やテロ・不審船・拉致問題等を通じて、ナショナリズム的傾向が危惧される状況があり、国際理解や国際交流の活動が非常に大切になっています。このような中で、多くの外国人が日本で生活されているという現実を知り、異文化の理解を通じて平和を考えようと「異文化理解から多文化共生へ」をテーマに開催されました。

(主催 ならコープ／共催 奈良県生協連

後援 奈良YMCA・奈良県原爆被害者の会／協力 ならNPOプラザ)

午前の部では、日本在住のポリヴィア、中国、フィリピンの方々に講師として参加いただき、それぞれワークショップ形式で行ないました。

■ポリヴィア講師：山田ロサリオさん

「ポリヴィアってどんな国？」

ビデオでの子ども達の暮らし等の紹介、国旗パズル、民族衣装、サルサのおどり



■中国講師：王フェイ・イさん

「中国文化ってどんなもの？」

中国作法でたてた烏龍茶・プアール茶・東京美人・緑茶、お菓子（ひまわりの種・ブルーベリー等）をいただきながら、子ども達の様子や住んでいる家の写真を見たり、手遊び・中国の簡単な武術の体験



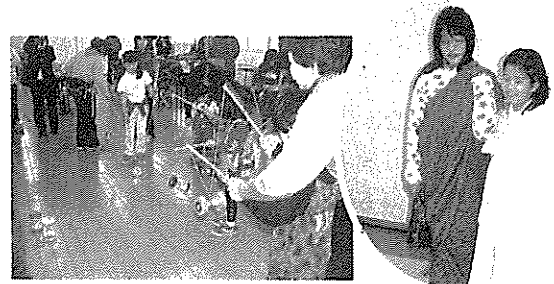
■フィリピン：淡路アリスさん

「フィリピン料理をつくってみよう」

メニュー ・パエリア・バレンシアナー（お米料理）
・カルデレーター（肉料理）
・プコ・フルーツ・サラダ（デザート）



午後の部では、アリスさんを講師につくったフィリピン料理をみんなで試食したあと、色々な国の民族衣装を着て写真を撮ったり、王さんの指導で中国コマに挑戦したり、お手玉・紙風船をして親子で楽しめました。また、ポリヴィア・ネパール・バングラデシュの手工芸品の展示・販売も行われました。



環境

環境に配慮した生活していますか？

ならコープ 環境担当理事 山根 理津子

ならコープでは、この秋奈良、桜井、香芝、天理の4市で行われたフェア（フェスティバル）に環境ブースを出展しました。それぞれの地域の組合員が出展の内容を工夫し、環境のために暮らしの中でできることを訴えたり、ならコープの環境配慮商品を紹介したりしました。それぞれのフェアで取り組んだことの一部を紹介しますと

- ・とぎ汁を出さず河川を汚さない無洗米の紹介、無洗米でつくったおにぎりの試食
- ・洗剤を使わずに食器を洗えるアクリルたわしの紹介、編み方講習、販売
- ・地域を流れる大和川とその支流の汚れ具合（COD）の分布図の展示
- ・身近な環境問題に気づいてもらう子ども向けアンケート
- ・ならコープの環境の取り組みを知ってもらうクイズ
- ・ならコープの環境配慮商品（洗剤、再生紙のノート類、ラップ等）の紹介

等です。

当日はたくさんの方がならコープのブースに立ち寄って、アクリルたわしを編んだり、クイズに頭をひねったり、環境配慮商品を手にとってみて下さいました。「え！洗剤なしでほんまにきれいになるの？」と驚いたり、洗剤を手には「いつもこれ使ってるねん」等さまざまな反応があり、ブースに立った組合員はそれぞれの経験や生活から説明したりお勧めしたりしました。

クイズの中に「ならコープの店で買い物をする人のうち何%の人が買い物袋を持って来

ているのでしょうか？」という問題がありました。20%・50%・79%から選ぶのですが、さて何%でしょうか？正解は79%です。「そんなにたくさん持って来てるの?!」「50%位かと思ったわ」と驚いた方が多く、私たち組合員はこれってすごいことなんだと再認識しました。79%の方の買い物袋持参によって、1年間で427万枚のレジ袋が節約され、レジ袋の原料になる原油をドラム缶237本分使わずにすんだことになります。こんな誇れる実績をたくさんの方に知ってもらい、ちょっとした心遣いで資源を節約したり環境負荷を減らしたり出来ることを訴えていきたいと思いました。

このような催しでは、環境のブースは模擬店やフリーマーケットに押され気味で決して華やかではありません。しかし、ならコープの環境の取り組みを地域の方にお知らせしたり気づきの場を提供したりすることは、身近なところから共に環境を考えていく第一歩になると思います。地味だけど大切なことと自覚してこれからも途切れず参加したいと考えています。



広がる協同・くらしの輪

関西電力との経営問題懇談会

10月4日関西電力本社において開催されました。今後の経営効率化の取組み、電気料金改定の概要について、東京電力のシュラウド等に係る問題に対する自主点検活動についての関西電力からの報告の後、企業の社会的責任問題、環境問題、原発の評価を中心に意見交換を行いました。

(関西消費者団体連絡懇談会主催)



学園祭

10月26～27日大阪樟蔭女子大学、11月2～3日奈良工業高等専門学校、11月8～9日奈良教育大学、11月10日奈良県立大学で学園祭が開催され、生協学生委員会が模擬店出店等で参加し、多くの学生・地域住民でにぎわいました。



広島県生協大会、広島県生協連35周年記念レセプション

10月21日、広島県民文化センター、メルパルクHIROSHIMAにおいて開催され、内橋克人氏が「21世紀・地域づくりと協同組合」と題し、グローバリゼーションで地域が失われていく中での、協同組合の果たす役割りについて話され、レセプションでは、国会・県議会議員、市町村長、広島県内の各種団体、各府県生協連から多数の参加がありました。

奈良YMCA40周年記念式典

11月4日、ならまちセンター、猿沢荘において開催され、奈良県知事、奈良市長を来賓に関係者多数が参加されました。奈良YMCAは設立から今日に至るまで、青少年の育成、国際貢献、平和活動や環境活動などで先進的な役割を果たされています。

食品安全委員会準備室との意見交換会

11月13日、大阪コロナホテルにおいて開催され、生協関係者など64名の参加がありました。準備室より、食品安全委員会と食品安全基本法の概要についての説明があり、参加者から、消費者の権利・参画の視点で多くの意見が出されました。

(内閣府主催)

食品衛生法改正骨子案に関する消費者との意見交換会

12月9日大阪コロナホテルにおいて開催され、約150名の参加がありました。厚生労働省より、見直しの基本的考え方、法の目的規定の見直し、国等の責務、残留農薬等のポジティブリスト制の導入、既存添加物の安全確認と問題あるものの禁止等、新開発食品の安全確保の充実、監視・検査体制の整備、営業者による食品の安全確保への取り組みの推進、飲食に起因する事故への対応の強化、罰則の強化についての説明の後、消費者の権利・参画の視点などで、40名の消費者から意見が出されました。

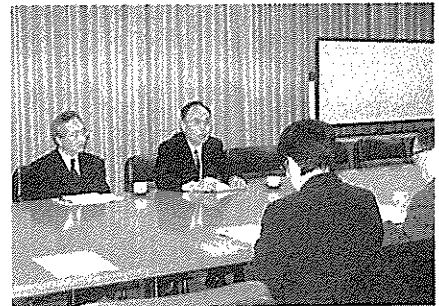
(厚生労働省主催)

関西消費者団体連絡懇談会 ありがた検討会

11月19日、大阪府消費生活センター会議室において開催され、これまでの活動の評価と今後の方向性について、運営世話人、監事それぞれから意見を出し合い、新たな前進に向けて引き続き協議することが確認されました。

2002年度 第2回生協・行政協議会

11月14日奈良県文化会館において開催し、2003年度に向けての要望書に基づき、「奈良県の食品安全行政の充実強化」「環境対策強化」「福祉行政強化」「消費者行政強化」「災害時における県民生活の安定」に関する施策について回答をいただき、意見交換を行ないました。



新米ヒノヒカリ試食会

11月20日農協会館において、消費者団体や報道機関に対し、万葉ふるさと米「ヒノヒカリ」の理解とアピールを目的に開催されました。全国作付面積で、コシヒカリ、ひとめぼれに次いで3位、もちもち感があって食味も良い等、認識を新たにしました。（奈良県農協主催）



近畿農政局との懇談会

11月26日近畿農政局において、近畿農政局から11名、府県生協連から26名の参加で開催されました。農政局の各種施策についての報告、各府県連から食に関わる取り組み報告の後、各施策に対する意見交換を行いました。



黒木局長のあいさつ

大学生協京滋・奈良地域センター総会

12月7日立命館大学において、学生、教職員、生協職員200名が参加し開催されました。2002年度「学びと成長を願い、学生、教職員、生協職員の元気を増やし、地域の人とともに魅力ある大学・地域・社会をめざす。」という視点での、各大学生協の実践報告が行われ、2003年度に向けて「1.食と健康 2.平和 3.国際交流と異文化理解 4.環境 5.共済～ひろげよう心の輪 6.学びと成長って何？ 7.新学期 8.大学づくり 9.みんなでつくる店活動」をテーマに議論が深められました。



つながる連帯・友好の輪

ならコープ

あけましておめでとうございます。

今年は、第6次中期計画の最終年度であると同時に第7次の計画を策定する年になります。また、2004年度に迎える創立30周年を準備する年にもなります。引き続き厳しい景況が予想されていますが、気を引き締めて諸活動をすすめていきたいと思っています。同時に、今年の春にかけてはISO14001認証取得、農産加工センター、組合員組織機構改革などのプロジェクトが稼動することになります。組合員の暮らしに役立つこれらの諸施策を確実に成功させたいと思っています。(広報課 青木)

奈良工業高等専門学校生協

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

奈良高専生協は、高校生の年代の学生委員が活躍しており、昨年は期間限定の喫茶「じゅて〜む」の営業や「かき氷フェスタ」等、新しいイベントを行いました。また「共済セミナー」への参加で、学生なりにいろいろと学ぶこともあったようです。

さらに昨年度誕生した同好会「料理研究会」が、生協と共同で新入生歓迎行事などを行い、県連にその活動を認められ表彰いただいたことも励みになっております。

本年も、県内の他生協との交流を通じ、生協に何ができるのかを考え、新しい取り組みを進めていく所存です。よろしくお願いいたします。(専務理事 鍵本)

奈良労済生協

全労済奈良県本部では、12月7日(土)県本部会議室において受講者26名出席のもと「ホームヘルパー養成講座(2級課程-通信教育)」の修了式を行ない、全課程を修了いたしました。社会貢献活動の一環としてホームヘルパー養成研修事業を実施し、1994年から3級課程を3回、1997年より2級課程を5回実施し、今年度で通算して9回目となりました。今年度は6月に開講し、9月から11月にかけて3ヶ所の施設で実習を行ない、12月の修了式を迎えました。たいへん長期間の講座となりましたが、一昨年より仕事をしながらでも参加できる通信教育型を実施し、受講者からも好評を得ているところです。現在までに2級・3級課程を実施して、延べ278名のヘルパーを輩出することができました。今後とも、全労済運動へのご理解と社会貢献活動への参画へのご協力の程よろしくおねがいたします。

(事業推進部推進1課 中川)

大阪樟蔭女子大学生協

新しい年にあたり、今春入学してくる高校生や在学中の樟蔭の学生にとって「充実した大学生活だった!」と言える大学をつくるファクターのひとつとして、生協が出来ること、得意なことに取り組み、大学生生活の集大成となる就職活動に勝つ、そんな支援を生協としてしていきたいと思っています。

(店長 羽賀)

奈良女子大学生協

中等教育学校での生協のお店について、お母さんの立場でバランスの良い食事をしてもらうようにするために、毎週話し合いをしています。4月から行ってきた、自分で好きなものを選ぶカフェテリアタイプのメニューから給食のような定食を取り入れたメニューを生徒や保護者の皆さんと一緒に作っていかうと考えています。食堂で使う食材も、地域で作られた、安く安全な食材を保護者のつながりや、奈良県生協連のつながりで広がることを期待しています。また、生徒達と一緒に生産者と交流できれば色々なことが学べると思います。

大学では、1回生が「一足早いクリスマス」企画を実施しました。

(専務理事 竹内)

奈良教育大学生協

新年あけましておめでとうございます。奈良教育大生協では年末から年始にかけて、新入生用パンフの作成に奮闘しており、なかなかゆったりとした気分になれずにいます。2002年を振り返ると、組合員に本当に喜ばれる事を昨年に比べていくつ増やす事が出来たのだろうか、という感があります。学生たちもアルバイト、就職活動に奮闘していますが、明るい材料が少ないようです。このような状況の中、学生の要望として、生協の食事代をもっと減らしたい、購買部の営業時間を増やしてほしいなどがありますが、生協として十分に応えられていません。私どもとしては携帯電話代をもう少し

し食事代にまわせないものかと思いますが、無理なことなのでしょうか。大学生協は大学から設備等がある程度貸与されているので、もう少しコストダウンが出来きそうなものですが、営業日が年間で200日程度しか稼働しないことや職域による品揃えの片寄りなどで、一般企業程コストダウン出来ないのが現状で、ジレンマに陥っています。しかし、このようなサイクルのなかでも新たな挑戦が必要と考えています。2003年度は独立行政法人化1年前で、大学から生協が福利厚生施設として大いに役立っていると言う信頼を得ることができる年にしたいと思っています。その意味で今年度の損益は大変重要です。そしてなにより、学生が明るく、元気で学生生活を送っている事が大学の魅力づくりとして大切な要素です。そのために生協で出来る事、大学に願う事を整理した上で、大学と共同して企画運営を行なうなど、より魅力のある大学・大学生協にしたいと思っています。

また、これからは大学が地域から離れて存在することが難しいと考えています。その点で地域と一体となって生協としていろんな事を実施し、貢献する事が求められています。

今年も着実に、一步一步、歩み続けたいと思っています。御支援、ご協力の程よろしく願っています。

(専務理事 宮崎)

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 9/5 理事長交流会 | 11/3 ひまわり号列車 |
| 6 大阪ガスとの経営問題懇談会 | 19 関消懇ありかた検討会 |
| 11 近畿地区生協・行政協議会 | 20 新米ヒノヒカリ試食会 |
| 17 食の安全運動推進会議 | 22 関西地連府県生協連協議会 |
| 20 民主党・市民連合との懇談会 | 26 近畿農政局との懇談会 |
| 21 コープ自然派奈良への県生協連説明会 | 30 ピースリレー都道府県連・会員生協実務責任者会議 |
| 10/4 関西電力との経営問題懇談会 | 12/5 県連責任者会議 |
| 26 第13回奈良県生協大会 | 8 ノーモア・ウォーのつどい |

迎春



編集後記

▽昨今、色々なところで「安全・安心」という言葉を耳にする。食品の安全問題に関わって、安全とはリスク分析手法に基づく科学的概念。安心とは人々の心に潜む不安との距離の尺度。との感を強くした。一方、国家間の安全問題に関わって、テロ・不審船や拉致問題等を通じて、国民の不安や愛国心をあおりながら、憲法九条の見直し・有事法制等々が国民の安全確保のために必要との世論づくりが行われている。安全が科学的概念とするならば、これは、人々の心に潜む安心の議論ではないか。周辺事態や武力行動が、国民の安全を確保することになるのか、科学的視点で、歴史の教訓に学ばなければならぬとの思いを強くしている。

(俊)

▽昨年は仕事に加えてボランティア活動やPTA活動等であり忙しい日々を送ってしまった。そろそろ、うちの子も今年頃で、親とよりも友達とお出かけする方が楽しくなっているみたい。これも成長していることの証かもしれないけれど、うれしいような寂しいような複雑な気分……。この一年はできるだけ子供と一緒に過ごして、親子で会話できる時間をつくりたいなあ。これって、親の最後のあがき？

(寿)

▽「今年の夢」 あーあ、また、ほーっと新年を迎えてしまっただけななあ。昨年はずーっと時間に追いかけられっぱなし……。こいつでも原因は、闇雲な手の広げ過ぎと、動きのところが、処理能力の鈍さと、にもかかわらず遊び過ぎ、か、な？とにかく「歳」のせいにする事だけはやめよう！この先の人生で、今日より若い日はないのだから。そして今年も、今日の若さを大切に、時間となかよくして、いっしょに日だまりでお茶を飲みたいなあ。

(恭)